

2024 年度 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価		
作成日		令和6年10月1日
法人名		園 名
社会福祉法人照治福祉会		浦堂認定こども園
まとめ		全体平均 4.35
第2章第2節 乳児期の園児の保育	乳児期においては人として安心、安全な生活を送るための基盤になるように保育者が愛情を持って接し身近な人を信頼すること、また生理的欲求が満たされることが重要になる。常に保育者に温かい言葉をかけてもらいながら、欲求が満たされるような丁寧な保育を日頃から心がけている。また体の発達も大きいこの時期に全身の様々な部分を使って過ごせるような空間、使用する玩具などが安全であり、個人の興味に沿ったものになるように配慮している。	
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	この時期においては基本的な運動機能も発達し、生活習慣においてもできることが増えてくる。言葉の理解も進み、自分の意思を伝えようとする姿も見られるようになる。自分でしたい、やってみたいの気持ちを保育者に受け止めてもらう経験を通して更なる信頼関係を築くことができ、他者への興味、他者を受け入れる気持ちも芽生えてくる。日々の保育の中で一人ひとりの発達に合わせた援助の仕方、言葉かけ、寄り添い方に配慮し、温かいまなざしでゆったりとした関わりが必要になる。	
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	幼児期に周囲から愛情を受けながら、自分の体や心を十分に使いながら安定した生活を送ることが大切である。その子の生きる力、人との関係を築く力など生涯において必要な力の基盤づくりとなる。周りの保育者が一人ひとりの子どもの気持ちに寄り添いながら、その子の興味関心を深めたり、いいところを伸ばしたり、自分が十分に発揮できるような関わりをすることが重要である。自分を大切にもらったという思いから、自己肯定感につながる。また自分を大切にできる子は他者も大切にしようとする。そのようにつながっていきけるように一人ひとりを受け止める。	
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子ども一人ひとりの発達や背景、生育歴などをふまえ、今のありのままの子どもの理解して必要な働きかけをすることが重要である。その子に関わるすべての大人が連携をとりながら専門性をもって対応していくことで、健やかな成長へとつながっていく。また子どもだけでなく子育て中の保護者の支援もおこないながら、園も一緒に子育てしていくという思いを持っている。	
第3章 健康及び安全	子ども一人ひとりの発達や背景、生育歴などをふまえ、今のありのままの子どもの理解して必要な働きかけをすることが重要である。その子に関わるすべての大人が連携をとりながら専門性をもって対応していくことで、健やかな成長へとつながっていく。また子どもだけでなく子育て中の保護者の支援もおこないながら、園も一緒に子育てしていくという思いを持っている。	
第4章 子育ての支援	子育て中の保護者の悩みなどはその人の特性や背景なども違う。そこも配慮しながらその人にとって必要な支援とは何かを考えることが大切である。それを継続的に行うことにより、保護者の心のゆとりが子どもに対しても良い影響を与えていくことになる。通っている保護者だけでなく、地域の親子とどこかでつながれるようにと色々な取り組みをし、そこで関わる職員は話しやすい、相談しやすい雰囲気心がけている。	
第5章 職員の資質向上	それぞれの生活に合わせた働き方ができるように、またその人の立場からのキャリアアップの機会をたくさん設けられており、それに伴って行われる研修はどれも自分のため、または保育にすぐに生かせるものである。法人としても自分さえ良ければという考えではなく、今の社会全体を見たもの、また先を見据えたものであり、職員は自分の在り方だけでなく、先の福祉のことも考えさせられる機会となっている。	
総合	子どもも大人もありのままの姿を大事にし保育を行っている。乳児は、育児担当保育を行い丁寧な保育を追究する事でよりよい保育を目指す。幼児は、興味や関心をより深く探求していく環境の中で子どものあそびや思いを実現できることに繋がる。ありのままの自分を出せる環境、日々の関わり、わかるなどを優しく温かい時間にできるよう職員の質をあげていきたい。子育て支援は保護者のニーズに合った関わりを心掛け、担任、公認心理士など必要な人材との話し合いの時間をもち保護者の心の負担が軽減できている。職員の質が最も大事だと考え、園内研修を行い、職員間で語り合い、振り返ることで自分ごととして捉えられる。職員も興味関心や学ぶ気持ち等に差があり保育の質の差がある。課題は、質の向上を目指し振り返りをより丁寧に行う。	
データ表		
内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	5.00
「3歳未満児保育」	32	4.78
「3歳以上児保育」	53	4.19
「教育保育の配慮事項」	16	4.56
「健康・安全」	29	3.83
「子育ての支援」	18	4.83
「職員の資質向上」	9	3.11
計	172	4.35
データグラフ		